

東京動力機械製造（株）地下工場跡

～どうくつ酒蔵～

施設管理者：株式会社 島崎酒造

施設所在地：栃木県那須烏山市神長字天神

調査見学時期：令和2年12月17日（木）

施設概要：

「どうくつ酒蔵」は、第二次世界大戦末期の昭和19年～昭和20年にかけて東京動力機械製造（株）により建造された地下工場跡地です。この工場では戦車を造る計画でしたが、終戦を迎え、工場として利用されることはありませんでした。

洞窟の地層は新生代中川層群の軽石質凝灰岩・凝灰角礫岩および凝灰質粗粒砂岩の軟岩であり、発破は用いず、手掘り掘削で施工されました。構造は、山の中腹に緩やかな1/100の勾配をとってほぼ水平方向に、平面的に掘られています。トンネルは縦方向に3本、横方向に5本、碁盤の目のように掘られており、総延長約600m、面積は約2,500m²です（下図参照）。東日本大震災を引き起こした地震の震度6弱の際も全く変状を生じませんでした。

洞窟内の気温は年間を通じて10℃前後、季節により上下約5℃の幅で穏やかに変化し、湿度も70%以上と高く、清酒を貯蔵熟成させるのに最適な環境となっています。

また、洞窟内は作業時のみにLEDを点灯しており、光による悪影響が無いように管理されています。

なお、「どうくつ酒蔵」は、東京動力機械製造（株）地下工場跡として土木学会選奨土木遺産（平成24年）および那須烏山市近代化遺産にも指定されています。

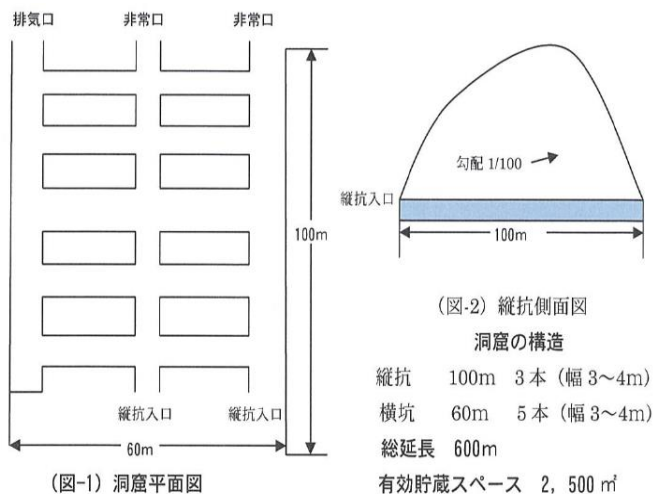


図 洞窟の内部図



写真 洞窟内の清酒の貯蔵熟成状況